【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成27年11月19日(2015.11.19)

【公開番号】特開2014-145281(P2014-145281A)
【公開日】平成26年8月14日(2014.8.14)
【年通号数】公開・登録公報2014-043
【出願番号】特願2013-13479(P2013-13479)
【国際特許分類】
Ｆ０２Ｂ　39/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０２Ｂ　39/00　　Ｊ
Ｆ０２Ｂ　39/00　　Ｄ
Ｆ０２Ｂ　39/00　　Ｇ
Ｆ０２Ｂ　39/00　　Ｃ
Ｆ０２Ｂ　39/00　　Ｒ

【手続補正書】
【提出日】平成27年10月5日(2015.10.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
コンプレッサとタービンとを連結するシャフトを回転可能に支持するターボチャージャの軸受構造であって、
コンプレッサハウジングの吸気口の内径部及びタービンハウジングの排気口の内径部にそれぞれ固定されると共に、前記シャフトの軸方向両端面をそれぞれ回転可能に支持する軸受を具備することを特徴とする、
ターボチャージャの軸受構造。
【請求項２】
前記軸受によって支持される前記シャフトの軸方向両端面には、軸方向に向かって凹形状又は凸形状に形成される第一係合部が形成され、
前記軸受の前記シャフトとの摺動部には、前記シャフトの軸方向に向かって凸形状又は凹形状に形成されると共に、前記第一係合部と係合可能な第二係合部が形成され、
前記第二係合部に前記第一係合部を係合させることにより、前記軸受が前記シャフトを回転可能に支持することを特徴とする、
請求項１に記載のターボチャージャの軸受構造。
【請求項３】
前記第一係合部及び前記第二係合部は、略円錐状に形成されることを特徴とする、
請求項２に記載のターボチャージャの軸受構造。
【請求項４】
請求項１から請求項３までのいずれか一項に記載のターボチャージャの軸受構造を具備することを特徴とする、ターボチャージャ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更

【補正の内容】
【０００８】
即ち、請求項１においては、コンプレッサとタービンとを連結するシャフトを回転可能に支持するターボチャージャの軸受構造であって、コンプレッサハウジングの吸気口の内径部及びタービンハウジングの排気口の内径部にそれぞれ固定されると共に、前記シャフトの軸方向両端面をそれぞれ回転可能に支持する軸受を具備するものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
請求項２においては、前記軸受によって支持される前記シャフトの軸方向両端面には、軸方向に向かって凹形状又は凸形状に形成される第一係合部が形成され、前記軸受の前記シャフトとの摺動部には、前記シャフトの軸方向に向かって凸形状又は凹形状に形成されると共に、前記第一係合部と係合可能な第二係合部が形成され、前記第二係合部に前記第一係合部を係合させることにより、前記軸受が前記シャフトを回転可能に支持するものである。